

てしろもりの丘よつば

経営方針

「一人ひとりへのよりそい・地域とのつながり・健やかなはぐくみ」を基本に、子どもたち一人ひとりのよりよい成長をお手伝いします。

具体的には、安全で安心できる環境の提供と人権尊重の価値観を基本とした「生活支援」、多様な児童の育ちを促す個別の専門的「発達支援」、18歳以降の将来を見据えた「自立支援」、家族関係の調整や親支援などの「家庭支援」、在宅障がい児を支える「地域支援」の5つの支援機能について継続して取り組みます。

■ てしろもりの丘よつば

[福祉型障害児入所施設（障害児入所支援、短期入所）、日中一時支援事業]

■ 放課後等デイサービス「あっぷるぱい」

[放課後等デイサービス、日中一時支援事業]

取り巻く環境

令和6年度は、定員40人に対し在籍32人と定員割れが続いた一方、短期入所の希望が増加しています。また、社会的養育が必要な児童や、障がい特性等に起因すると思われる粗暴行為が日常的に見られる児童等が増えています。的確なアセスメントを含む職員の支援力の向上とともに、虐待防止意識の一層の向上が必要となっています。

18歳以上の利用者（特別支援学校高等部3年生の利用者）の移行先の確保は、障害児入所施設にとっての引き続きの課題であり、学校及び関係機関との連携強化が重要となっています。

放課後等デイサービス「あっぷるぱい」は、特別支援学校が隣接していることもあり、利用希望者も増えていることから、安心安全なサービス提供とより充実した余暇支援の提供が必要です。

令和7年度【事業の重点項目】

1 人権尊重と虐待防止の意識の徹底

人権尊重と虐待防止意識の一層の向上を図るため、研修の実施、グループワーク等を引き続き行うとともに、てしろもりの丘グループとしての「行動基準」を新たに作成します。

「意思決定支援」の取り組みなどを進めるなかで、「私たちの仕事は虐待をしなければよいのではなく積極的人権擁護」という意識を高めていきます。

2 安心安全なサービス提供と支援技術の向上

措置入所等、支援に困難性を伴う利用者の増加とともに、発達障がいや愛着形成に課題のある利用者等による粗暴行為が日常的に見られている状況にあることから、障がい理解についての学習と利用者の特性把握に努め、視覚支援の活用など、より効果的な支援方法の構築と標準化を図ります。

また、各種マニュアル等が移転後のユニット、職員体制等に合致したものとなっているか等引き続き見直し、また、必要な改定等を行い、安心安全なサービス提供に努めます。

18 歳以上の利用者（特別支援学校高等部 3 年性の利用者）の進路検討については、県の「障害児入所施設入所者の移行調整に係る会議」の構成員として参加するとともに、学校及び関係機関と連携し移行を進めます。

3 地域ニーズに応じた事業の展開

利用申し込みが急増する傾向にある短期入所・日中一時支援の利用の調整を行い、障害児入所支援と合わせ利用率の維持・向上と経営の安定化を目指すとともに、緊急一時保護対応等のセーフティネット機能を担っていきます。

放課後等デイサービス「あっぷるぱい」においては、昨年度国から示された 5 領域（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）を網羅する総合的な支援を行うようサービスメニューの充実を図り、利用率の維持及び向上を目指します。

4 地域住民との信頼関係の構築

昨年度から外部関係者、一般の方にも公開して実施した「てしろまつり」を引き続き実施するとともに、地域行事にも参加するよう努め、地域住民との相互理解を図ります。

保護者、関係機関、地域住民等の施設見学の希望には積極的に対応していきます。

5 労務管理の徹底と働きがいのある職場づくり

業務の見直しによる効率化、職員個々の業務の見える化及び連携強化を図り、時間外労働の削減を目指します。

5S 活動を習慣化させ、労務環境を整えるとともに、チーム支援の中で職員が仕事にやりがいを感じられるよう、「にこりほっと活動」等を展開するなど、風通しのよい職場づくりを行います。

6 災害対策の強化

施設における防災設備の周知把握及びユニット構造に即した防災体制の構築を図ります。